

1 原稿の作成

研究報告の原稿は、次により作成するものとする。

- (1) 原稿は、原則として横書きとし、題名、所属学科、氏名の順に記入する。
参考文献は、原則として論文末尾に記入する。
- (2) 論文のはじめにアブストラクトを細字で入れることを原則とする。
アブストラクトは100語程度とし、用語は英語とする。
- (3) キーワードをアブストラクトの下欄に記入する。
キーワードは4~5個程度とし、用語は英語と日本語でそれぞれ記入する。
- (4) ヘッディング(Heading) ページの上の欄に載せる省略題名は必ず指定する。
- (5) 本文について
 - イ 意味の明確さを失わない程度にできる限り簡潔にする。
欧文原稿(以下「欧文」という。)は、特に吟味しておくこと。
 - ロ 欧文は、A4用紙にタイプライターを用いて浄書し、ダブルスペースにする。
和文原稿(以下「和文」という。)は、委員会指定の原稿用紙を用いる。ただし、縦書きの場合は、400字詰原稿用紙を用いる。ワープロによる原稿もこれに準ずる。
 - ハ Sectionは、§1, §2.....のように番号をつけ、Subsectionも2.1, 2.2, 2.1.1, 2.1.2のように番号をつける。
 - ニ 句点, 読点, かっこ, ハイフンなどは原稿用紙の一こまに書き、行を改める場合は、最初の一こまを空ける。
 - ホ 欧文の場合、数式等イタリックにすべき文字は、Aのように文字の下に と朱書する。
和文の場合、符合及び数式中のローマ字は、イタリックとするので、直立体にすべき文字は、Bのように文字の上に と朱書する。
欧文、和文とも文中、ゴシックにすべき文字は、Cのように文字の下に ~ と朱書し、欧文の場合、ゴシック・イタリックにすべき文字は D と朱書し、和文の場合、ゴシック・直立体にすべき文字は E と朱書する。
ギリシャ文字の場合、キとして文字の上にギと朱書する。
添字は、キ², キ₁のように 又は と朱書し、見やすくする。
 - ヘ 数式等は印刷に便利になるように注意し、特に文中に挿入する場合は、例えば $\frac{b}{a}$ は b/a , $e^{-\frac{E}{2kT}}$ は $\exp\{-E/(2kT)\}$ 等のように書く。二重の添字や e の肩にのる添字をつけること等は避ける。
 - ト 0(オー)と0(ゼロ), a(エイ)と (アルファ)と (シグマ)等のまぎらわしい文字は、はっきりと書き、ゼロ, エイ等と文字の上方に朱書する。
大文字と小文字の区分が困難な欧文文字は、必ずC^{*}のように大の字を朱書する。
 - チ その他印刷すべき本文以外の指定や注意書きはすべて朱書する。
- (6) 表, 図, 写真について
 - イ 表及び図は最小限にとどめる。表, 図の内容, 番号及び説明は、原則として英語で記入する。表はその上に、図はその下に番号及び説明をつけ、表の番号はTable 1, 図の番号はFig.1のように記す。日本語による場合は表1, 図1のように記す。説明は別紙にまとめて記入してもよい。
 - ロ 図面は、委員会指定の用紙を用いる。
 - ハ 文字, 記号等は、濃い鉛筆ではっきり記入する。
図の中に記す文字, 数字等については、前号ホ及びトに従うが、朱書する部分については、消しゴムで消える程度の薄い鉛筆書きとするか、又はコピーをとりそれに朱書する。
曲線等の墨入れは投稿者が各自で行う。
 - ニ 各図面は、別々の紙に書き、投稿者名を欄外に朱書する。

ホ 表，図の挿入箇所は，本文の左欄外に Table 1 のように朱書する。

ヘ 原図の大きさは，図版の 1.5～2 倍が適当である。図版の仕上がりは，原則として横は，13.5cm，9cm，6cm(縦はいずれも 21cm 以内)とし，その寸法を図の脇に朱書する。

ト 図版の製版に先立って，原図を十分校正しておく。

製版後の修正には原則として応じられない。

チ 写真は，図版に準じて取り扱うが，カラー写真の掲載は原則として認めない。

(7) 文献の引用は，1)，2)，3～5)などのように通し番号をつける。また，原則として一つの番号について一つの文献を対応させる。記載の方法は，各自の所属学会の習慣又は規定によるものとする。

例：雑誌文献 執筆者名：(論文名)，雑誌名，巻，号，発行年，ページ

単行本文献 著者名：書名，巻，発行年，発行所，ページ

(8) 脚注は，原則として本文の下に横線を引き，その下に記入する。

脚注番号は，ページごとに ， 等を用いる。

2 原稿の提出

投稿者は，呉工業高等専門学校図書委員会規則施行細則第 4 条第 1 項に規定する期限までに研究報告の原稿を所属の委員に提出する。

